学校運営協議会議事録

校名	大阪府立富田林支援学校
(准)校長名	校長:岡本 泰宜　　准校長:向山 和子

開催日時	令和7年2月25日(火)　9時30分　～　11時30分
開催場所	府立富田林支援学校　1階　会議室
出席者(委員)	安原 佳子委員(桃山学院大学 社会学部 教授)、北山 琢也委員(こんごう福祉センター さわやか 施設長) 小田桐 茂委員(富田林市立東条小学校長)、成澤 佐知子委員(四天王寺太子学園 施設長) 土本 由紀子委員(本校PTA会長)
出席者(学校)	岡本 泰宜 校長、向山 和子 准校長、出浦 美果 教頭、間苧谷 眞吾 事務長 池田 修三 首席、下井 智史 首席、築 美緒 首席
傍聴者	なし
協議資料	・令和6年度学校経営計画及び学校評価(案)、令和7年度学校経営計画及び学校評価(案) ・令和6年度学校教育自己診断結果 ・令和6年度中学部・高等部卒業予定者の進路状況

議題等(次第順)

1　開会あいさつ
2　協議
　令和6年度学校経営計画及び学校評価(案)、令和7年度学校経営計画及び学校評価(案)について
3　閉会あいさつ

協議内容等・承認事項等(意見の概要)

委員)
・全国的に深刻な教員不足の中、学校教育自己診断の回答率が低下したと聞いて、先生方の疲弊感やいろいろ事情があるように感じる。
・教員全体の人数、毎年入れ替わる人数はどのくらいか。また、専門性向上の項目に関連して、初任期教員とはどのような教員のことか。

事務局)
・教員数は講師を含め概ね180人。毎年、各学部3～5人程度、全体で10～15人程度、講師を含むと20人弱くらいが入れ替わる。
　5年スパンで見ると、かなりの人数が入れ替わっていることになる。
・初任期教員とは、1～5年め程度を想定。初年度は研修が充実しているが、2年め以降は教育センターの研修も急に少なくなる。
　5年めまでは力をつけるために重要な時期であるため、計画的に育成プログラムを組んで進めてきたが、この3年間で根付いてきたので
　今後は5年め以降にも拡大し、キャリアに応じた研修をやっていきたい。教育センターでも10年めまでは計画的に研修が提供されている。
・他学部を見学する研修も行っている。小学部の教員が高等部の授業を見ることで、先を見据えて子どもに必要な力をイメージしやすい。

委員)
・施設でも階層別の研修は重点課題。経験の長い職員が異動してきたときに、1年めとしての勉強させてほしいという意見があった。

事務局)
・学校も同様、経験は長いが、支援学校は初めての教員もいる。支援学校に新転任してきた教員の研修も教育センターで行われている。
　本校でも、新転任者を対象に研修を実施している。子どもたちにとっては全員の先生がしっかりと機能していることが大事。

委員)
・戦略的、多角的にさまざまな取組みをされていると思う。また、市長との交流会は社会参加につながる取組みとしてすごいと思う一方で、
　残業の増加や疲弊感など、頑張れば業務が増えるというジレンマもあると思う。業務の効率化に向けた考え方や取組みなどはあるか。

事務局)
・同じことを繰り返すのではなく変化も必要だが、新たな取組みを進めると、一時的であっても業務が増えるので難しいところ。
　府も働き方改革を打ち出している。スクラップアンドビルドを意識し、増やした分は減らすことを考えていきたいと思っている。
・ひと月あたり45時間以上の時間外勤務の人数は、昨年度13.9人、今年度は集計中ではあるが、15.7人に増加したと報告したが、
　分析すると、昨年度までは同じ人が多い傾向にあったが、今年度はバラつきがある。つまり、特定の人に負担が掛かり、健康リスクが
　高まっている傾向にはなく、昨年度より平準化されており、良い傾向という捉え方もできると思う。
・教育庁において、全教職員の労働時間の統計が取られており、本校の残業時間数の合計は、昨年度に比べると8%程度減少している。
　いろいろな教員が月によって労働時間が長くなっているという傾向がみられ、メリハリをつけた働き方が浸透してきたとも言える。
・とは言え、疲弊感は高まっており、ストレスチェックの結果を見ても、コロナの時は良かった数値が近年は悪化している。
　ストレスチェックの結果から、仕事量に負荷を感じている人が多い。仕事の進捗や量を自分でコントロールできるとやりやすいが、それが
　難しく、仕事に追われているという感覚を持っている教員が多いことが課題である。

委員)
・スクラップアンドビルドと人材育成が大事と思う。最近は外で研修を受けるよりは、内部で研修をするなどの工夫をしている。

委員)
・個別最適な学びの充実を重視しつつ、小中高の職員間で交流し、授業見学を行うことは良い取組みと思う。
　教職員の異動がある中、人材育成の意味でも、小学校の先生が高校の視点を持つという点で、交流の意義が大きいと感じる。
・富田林市内の小学校でも、児童会などの代表の子どもたちが市長の前で「子どもの権利条約」で大事にしているところを主張する取組み
　をやっている。支援学校でもされていると聞いて、卒業後の進路に向けて、自己実現や自己肯定感を高める素晴らしい取組みと思う。
　一方で、こうした取組みによって、働き方改革がやはり問題になると思う。研修や新しい取組みは当然プラスになるが、疲弊感も生じる。
　8%減ったと聞き、工夫されながら対応していることと思う。また、新システムが導入されると、新たに様式なども作っていかないといけない
　ので、本当にご苦労があることも理解できる。
・人権教育について、子ども一人ひとりを大切にすることは小学校でも重点を置いている。ぜひ進めていただければと思う。

事務局)
・小学校は本校と近い距離に位置しているので、人権教育なども何か一緒にできることがあればいいと思う。
・市長との交流会とはまた別に、子どもの権利条例の制定に向けて、本校では児童生徒会の子どもに市からヒアリングが行われた。
　小学校では、どのような取組みが行われたのか。

委員)
・富田林市立小学校16校の代表が議場に集まり、子どもが市長さんたちに対して、「子どもの権利条約」で子どもたちが大事にしていること
　などを発表する機会をいただいた。こんな思いを持っていたのかということが分かって、新たな発見があった。市からこのような機会を与え
　られて、子どもたちが充実した姿を見せてくれて大変嬉しく思った。

事務局）
・子どもたちが達成感を感じたり自己肯定感を高めたりできて良かった。子どもたちはよく考えていて、意見に驚かされることがある。
来年も引き続き、協力していきたいと考えている。
委員）
・保護者アンケートの回収率について。小学校でもGoogleでアンケート協力をお願いしたが、紙での実施より回収率はかなり下がった。
業務の効率化を考えるとGoogleの方が良いが、非常に悩ましいところ。大いに共感できる。
委員）
・先生方の疲労感が増していることが気になる。アンケートについて、昨年度は回収率を100%に近づけるため、協力依頼のお声を掛け続けたと聞いたが、今年はそこまでしていない理由は何かあるか。提出されない方の声を聞くことが重要と感じる。
事務局）
・学校教育自己診断は本来、教員がその意義を自覚し、学校をよりよくするために主体的に行うべきもの。昨年までは個別に提出をお願いし続けたが、今年は本来の趣旨を踏まえ、全体への声かけのみにしたところ、アンケートの回収率は昨年度の8割程度に下がった。
・ご指摘のとおり、提出しない先生の声はぜひ聞きたい。回答することも一つの業務であり、業務が多岐にわたっているため、優先順位が後になってしまうというのも要因の一つと思う。良い評価を得ると嬉しいが、良い評価を得るためにやっているわけではなく、課題を見つけるために実施しているもの。批判も含め、より多くの声を聞くために、回収率を上げる方法については引き続き考えていきたい。
委員）
・他の府立校では、紙とGoogle両方を取り入れているところもある。選択肢を用意することで、提出率が6割から8割に上がったと聞いた。
準備は大変と思うが、回収率を上げるためには、両方の選択肢を用意することもご検討いただければと思う。
・令和7年度の中期的目標の1人1台端末の項目について。R4年度からR6年度までの数値が下がっている中、R9年度の目標数値が90%以上というのは目標設定が高すぎるようにも思うがどうか。
事務局）
・学部ごとに差があり、高等部では90%を上回る評価を得ている。実際に授業での活用も増えており、小中学部も保護者にもっと取組みが伝われば、楽観的かもしれないが改善されると考え、90%に設定した。場合によっては、施設にも協力をお願いする必要があると思うが。
委員）
・施設から通う子どもが多いことが影響していると思い、申し訳なく感じている。施設では、タブレット端末を持ち帰った場合、一般家庭とは違い、50人いれば50人分の管理が必要。壊したときの保証問題などを考えると、頑張ってやっていくとは言いにくい状況。
委員）
・今年の夏に、ようやく施設の共用部分にWi-Fi環境を設置した。近年、SNSトラブルが原因となって、施設に入所せざるを得ない子もいる。
そのような中で安全性を担保しながら取り組んでいくことが非常に難しい。退所後はすぐにネット社会の生活になるので、徐々に進めてはいるが、一気に持ち帰って管理することは現実的には難しく、置いておくだけのような状況になってしまうのが現状と思っている。
委員）
・3分の1が施設入所の子どもと伺い、アンケートの回収率が低いのは施設が影響を及ぼしている部分もあると思う。最近、単純な知的障がいより、家庭の問題、犯罪や非行、性の問題なども多い。障がいがベースにあると思うが、児童自立支援施設からの入所依頼も増加。
・児童養護施設で生活している障がいのある子は、支援学校ではなく、私立高校に入学する子が多く、卒業後に詐欺被害に遭う子もいる。
犯罪に巻き込まれないように、いろいろな危険性や起こり得ることを広く教えていく必要があると思っている。
委員）
・施設の利用者層がかなり変わってきている。いわゆるグレーゾーンの子が入所するために手帳を取得するといった状況もある。
施設の生活に馴染めず、障がい受容からのスタートで苦慮している。SNS等の使い方、付き合い方については課題であり、支援学校とも協力させてもらいながら考えていきたい。
事務局）
・比較的軽度の知的障がいのある子どもが増えており、家庭環境も複雑で心理的な支援が必要なケースは他校でも増えてきている。
SNSトラブルで本校以上に苦慮している支援学校も多い。施設や家庭、学校と情報を共有し、連携しながら対応していきたい。
事務局）
・評価が下がってきている背景には、一人1台端末が学校に導入された当時は驚きがあったので評価が高かったが、当たり前になり、
新鮮さが薄らいできたのも要因として考えられる印象がある。
・持ち帰りは進めたいが、個人情報の漏洩がいちばんの課題。写真や生徒の名前などが入っていないかチェックする必要があり、教員の負担が増加する。遠隔授業も進めたいが、外出先でもアクセスが可能になるので、ルールの整備が必要。整理しながら進めていきたい。
・来年度から、高等部でロイロノートを活用していく。費用は発生するが、施設の方にもご協力をお願いしたい。
事務局）
・地域の小中学校に通うきょうだいがいるご家庭は、タブレット端末を持ち帰って宿題をして提出することが日常的にある。本校の中では
活用は進んできている反面、きょうだいが通う学校との比較も評価が下がってきている要因のひとつとして考えられる。
委員）
・活用が進んでいるのに評価が下がってきているよう見えるのはもったいないように思う。高等部は高い評価が得られたのであれば、
その点はもっとアピールしつつ、小中学部ではまだ課題があるという記載の仕方をしてはどうか。
・子どもたちが自分の意見を主張する取組みは素晴らしいこと。富田林市と連携し、今後もぜひ取組みを進め、頑張っていってもらいたい。

令和6年度の学校経営計画及び学校評価、令和7年度学校経営計画及び学校計画のめざす学校像、中期的目標について承認された。
今回ご指摘いただいた点を踏まえ、表現に少し工夫を加えることを確認する。

次年度の会議開催予定	
日時	令和7年6月24日（火）9:30～11:30
会場	府立富田林支援学校　1階　会議室